

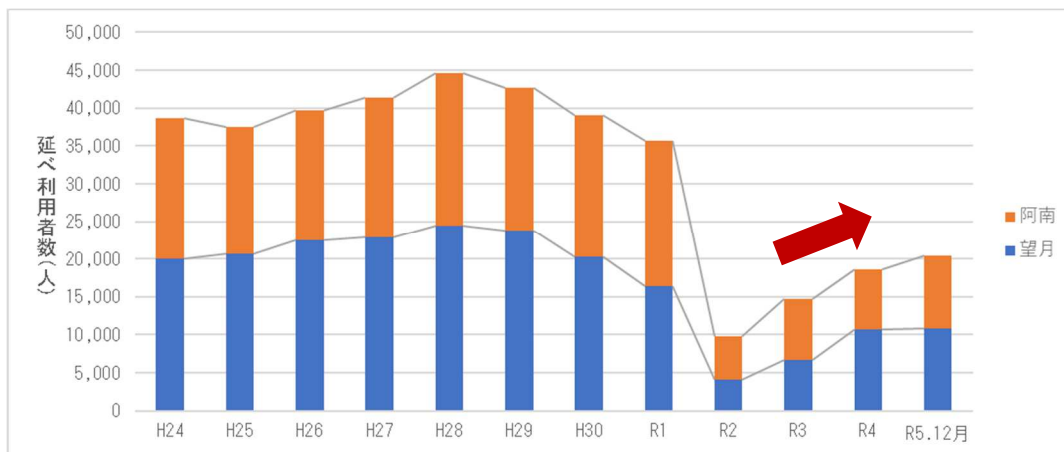
## 県立少年自然の家（望月・阿南）について

文化財・生涯学習課

### 1 これまでの主な調査結果

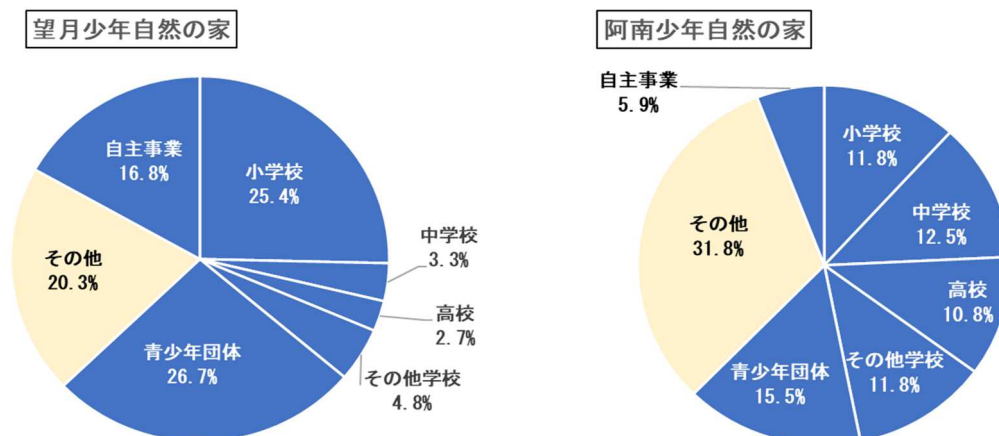
#### (1) 利用状況（延べ利用者数の推移）

新型コロナ下では利用者数が激減したが、R5.12月時点で感染拡大前の6割程度まで戻るなど回復基調。



#### (2) 利用者割合（令和5年度12月時点 延べ利用人員）

利用者に占める学校・青少年団体・自主事業（指定管理者が実施する子どもを中心とした自然体験・地域学習のプログラム）の割合は、望月79.7%、阿南68.2%となっており、子ども達が主な利用者層となっている。



#### 【学校利用割合の変化（延べ利用人員）】

H24とコロナ前（R1）、コロナ後（R5.12現在）の学校利用の割合を比較すると、阿南については大きな変化は見られないが、望月は学校利用の割合が大きく低下している。

	H24	R1（コロナ前）	R5（12月現在）
望月	11,809人（59.1%）	7,418人（45.3%）	3,928人（36.2%）
阿南	8,963人（47.9%）	7,420人（38.4%）	4,471人（46.9%）

### (3) 学校行事（自然体験活動）の状況

キャンプ・林間学校、登山の実施形態に変化が見られる。行事の見直しや新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとした行事形態の変化と考えられる。

学校行事（自然体験活動）の実施率の推移 (%)

		H26	R 1	R 5
キャンプ・林間学校	小学校	52.7	52.2	52.1
	中学校	75.0	66.1	<b>65.6</b>
登 山	小学校	25.9	34.2	33.0
	中学校	83.0	59.7	<b>35.0</b>

学校行事（自然体験活動）の宿泊実施率の推移 (%)

		H26	R 1	R 5
キャンプ・林間学校	小学校	98.6	97.5	<b>87.3</b>
	中学校	99.3	95.5	<b>78.7</b>
登 山	小学校	40.3	27.1	<b>23.8</b>
	中学校	92.3	87.1	<b>49.3</b>

(学びの改革支援課 調)

## 2 今後の検討について

利用者数がコロナ禍前の6割程度まで戻るなど回復基調にあるが、学校利用の割合が低下するなど、コロナ前と後で利用状況に変化がみられる。利用者の声をさらに聴くなどし、ニーズの変化を詳しく把握する必要があることから、引き続き検討を深めることとする。

県立少年自然の家（望月・阿南）運営方針の検討について

文化財・生涯学習課

近年の社会情勢等の変化を踏まえ、県立少年自然の家（望月・阿南）に関する今後の長期的な運営方針について検討を行います。

1 現状と課題

- ・コロナ禍をきっかけとしたアウトドア活動への関心の高まり
- ・子どもたちの自然体験活動の機会の減少、体験格差
- ・学校における自然体験活動の多様化（日帰り実施の増加傾向等）
- ・建築後年数経過に伴う維持管理コストの増加や施設性能低下

2 検討事項

子どもたちの体験学習・野外学習の推進にあたり、少年自然の家が果たすべき役割・機能と長期的な管理運営のあり方

3 スケジュール

